

5月10日 校長講話「えんま様の失敗」

来週から「なかよし週間」です。今日は「えんま様の失敗」という昔話をします。

昔、三人のなかよしがありました。三人の仕事は、**山伏、軽業師、歯医者**です。あるとき山に遊びに行った三人が道に迷ってしまいました。すると、「右 極楽 左 地獄」と書かれたみちしるべが立っていました。三人は、「地獄なんて一生に一度も拝めないところだから、左の地獄に行こう。」ということで左の山道を進むことになりました。

しばらく行くと、地獄に進む三途の川が流れていましたが、三人はさっさと渡ってしまいました。その先は真っ暗闇で、黒い門の前には赤鬼と青鬼が立っていました。鬼たちは、三人をえんま様の前に連れてきました。

三人が地獄を見物に来たことを話すと、えんま様が怒って

「こんなばかなやつらは、適当に見物させ

て、釜ゆでにして食べてしまえ。」と言いまし

た。

赤鬼が三人を釜ゆでの場所に連れて行くと、釜は真っ赤、湯はぐらぐらと煮え立っています。すると山伏が、

「おれは山伏だ。湯立てで熱い湯には慣れている。おれに任せろ。」と言うと、呪文をとなえて湯に入りました。湯はいい湯加減になり、三人でいい気分でお湯に入っていました。

次に青鬼がやってくると、三人を針山地獄に連れていきました。見ると、針が体に刺さって血だらけになっている人がたくさんいます。すると軽業師が

「おれは、軽業師だ。二人ともおれの肩に乗れ。」と言うと、二人を肩に載せ、つま先で針山の針の上を渡っていき、てっぺんまで登ってしまいました。

最後に、えんま様が

「そんな奴らはわしの前に連れてこい。わしが一口で食ってやる！」と言って、三人がを食べ

てしまいました。その時でした。**歯医者がかんぬきを取り出し、えんま様の歯を次々にぬき始めました。**えんま様は

「あいたたた。なんだ、こいつらは。こんな煮ても焼いても食べぬようなやつらは、さっさと、

もとの世の中へ戻してしまえ。」と言って、三人を吐き出しました。

なかよし三人組を甘く見たえんま様の失敗でした。

三人は、無事この世に戻ってくることができたのです。





この三人は、山伏、軽業師、歯医者というそれぞれ違った技能を身につけていて、得意なことが違う仲良し三人組だったために助かることができました。自分とは違った趣味や考え方をする人は、もしかしたら、みなさんに、新しい世界を紹介してくれる宝物になるかもしれません。

みなさんのお友だちはどんなお友だちですか。サッカーやバスケットボールが好きで運動が得意、歌が好きで音楽が得意、読書が好き、ゲームが好きというように、得意

なことや好きなことが一緒だという友だちが多いのではないのでしょうか。そういうお友だちはこれからも今までと同じに大切にし、これからは、さらに、好きなことや考え方が違う人とも遊んだり、話したりして、新しい友だちをたくさん作ってください。